

# The World Citizen

## 令和3年度 第2回学校評価保護者アンケートの結果と改善策について

本年度2回目のアンケートは、全校で643人(86%)の保護者の方にご回答をいただきました。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。前回から生徒も一人一台のクロームブックを活用しての実施となり、今回の回答率は83%でした。アンケートの集計結果がまとまりましたので、お知らせいたします。お寄せいただいた貴重なご意見をもとに、日々の教育活動の工夫・改善に努めていきたいと考えております。来年度もよろしくお願ひいたします。

\* 集計結果は、生徒・保護者の「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の合計割合(%)です。

評価項目	第2回集計結果		今後に向けての改善策
	前期	後期	
1 子どもは家庭や地域でも自分から進んであいさつをする。	88	85	登校時の様子から、挨拶が苦手な生徒もいるようです。感染症対策を講じた上で、「すべての基本は挨拶から」「心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ力や意味を理解し、より多くの教職員が生徒に声かけできるように、あらゆる場面で行います。
2 子どもは家庭で、学校での清掃活動の経験を生かしている。	66	61	生徒の自己評価は思ったよりも高いが、それに対して保護者評価が低い状態が改善できていない。この状況を保護者により認識してもらって手立てを考えたいと思います。
3 子どもは学校が好きである。	90	81	感染症対策を講じた上で、朝の奉仕活動等を通して生活(学習)環境を整備し、「環境が人を変える」ので生徒が自身の可能性を広げることができる環境を整備していくとともに、生徒と生徒、生徒と教師のよりよい人間関係の構築を目指します。
4 子どもは英語や外国文化に興味がある。	82	82	現在の取組を継続しつつ、4技能に加えて5領域目(発表力・伝える力)を意識した授業を行い、ICTを有効に活用して生徒の知的興味関心を引き出す取組を実践していきます。
5 イングリッシュキャンプやスピーチコンテスト、海外修学旅行などにより、子どもの国際コミュニケーション能力は高まっている。	79	77	スピーチコンテストを初めとする行事において、コミュニケーション内容の両面でより質の高い発表ができる生徒を育てられるよう、英語科全体で指導方法の改善を図ります。
6 学校は、授業や学校行事を通じて我が国の文化・伝統に触れる機会を設けている。	86	80	授業研究・FEWC推進部から示されたカリキュラムマップの改善に努め、各教科目ごとに日本、世界の文化・伝統を意識した授業内容を充実させます。
7 子どもたちには、確かな学力身につけている。	83	84	授業アンケートの結果をもとに、コロナ禍での授業、定期考査、課題内容等を見直し、個々の生徒の理解度を正しく把握し、指導の改善に努めます。
8 英語や数学の少人数学級は生徒の学力向上に効果がある。	93	90	少人数指導のメリットを再確認し、職員全体でそれを共有するとともに、形式的な指導に陥らないように、工夫ある授業を展開していきます。
9 子どもは、自分なりの目標をもって学習に取り組んでいる。	81	83	一人一台パソコンというハード面の充実をふまえ、使用教材というソフト面の工夫が急務であり、各教科・学年で積極的に取り組みます。
10 子どもは、毎日家庭学習に取り組む習慣が身につけている。	73	73	中高一貫校における学力の二極化という現状を克服すべく、適切な課題の課し方について、授業改善と関連させて全教科・学年で検討します。
11 子どもの様子から、子どもは先生との信頼関係が築けている。	87	79	コロナ禍において、全職員で全生徒の言動を特に注視、情報共有し、「全職員が全生徒のことを大切な存在だと想い」「すべては生徒の成長(健全育成)のために」迅速かつ適切なタイミングで声かけ等を行ないます。
12 学校生活を通して、子どもはクラスの友人とよりよい人間関係を築いている。	91	90	コロナ禍においても現在の取組を継続しつつ、「クラス全体が1つの家族だと想って」互いの価値観を認め合い、互いに高め合える集団を目指します。
13 子どもは自分の健康に留意して生活している。	81	80	後期生徒の自己評価が低下しています。自己管理能力を高めるとともに、質の高い眠り等について啓発していきます。
14 子どもは、部活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる。	91	78	4年次以降の部活動参加率を低下させないための現在の取組を維持するとともに、委員会活動の活性化に向けた新たな取組を考えます。
15 学校はいじめ防止に努め、いじめが発生した場合にも解消してくれました。	86	83	コロナ禍において特に差別、偏見、誹謗中傷がないよう現在の取組を継続しつつ、いじめの定義を周知徹底し、いじめの認知を積極的に行なっていく。その上で、いじめは「人の尊厳にかかわること」「人として絶対に許されない」「被害者は最後まで守りぬく」という基本姿勢を貫き、よりきめ細かい対応として生徒への面談等を実施し関係を密にしていきます。
16 子どもは、自己を理解したうえで将来の職業を選択しようと考えている。	81	86	生徒一人ひとりが興味・関心を抱くテーマを自己認識し、自らの学習意欲を向上させる支援を行います。(基礎期) 生徒一人ひとりが自己の適性を認識し、将来の目標となりうる職業を意識する支援を行います。(充実期)
17 子どもは、自分自身の進路に関する意識を有している。(後期課程のみ)		91	文理選択や科目選択をふまえ、生徒一人ひとりが自己の学習計画を立案・実行する支援を行います。(発展期)
18 子どもは進路希望を理解している。	79	89	感染状況により対面での実施が望ましくない場合には、動画配信をするなどして、その内容を保護者に提供します。
19 学校から、生徒・保護者に必要な進路情報の提供を受けている。	72	82	各学年通信に学習時間調査の結果や学力推移調査等の結果を掲載し、各家庭で保護者と生徒が進路に関して話し合うテーマを提供します。
20 進路講演会や進路関連行事は、子どもの成長が伺える機会であり有益である。	85	83	年間計画に従って3月に実施される全校の保護者を対象とするPTA進路学習会において、進路情報を提供します。
21 学校のwebページには、新しい情報が定期的に載っている。	79	76	Webページに対する保護者の要望を把握し、Webページの持つ本来の情報発信機能を重視して、今後も学校の行事や授業の様子等タイムリーな情報発信を心掛けます。
22 保護者向け学校行事は、子どもの成長が伺える機会であり有益である。	89	87	様々な機会を捉えてながら保護者のニーズに応えられる行事が企画できるように努力します。
23 学校は、適切に文書やメール等で連絡してくれる。	82	79	一斉メールのあり方を常に振り返りながら、必要な情報が過不足なく伝達出来るように引き続き努力します。
24 学校はPTA(保護者)と連携し、奉仕活動などの地域活動を行っている。	74	75	これまでの取組を効果的に継続し、引き続き活動の実態を周知するよう努力します。
25 担当する授業でクロームブックを活用している。	95	91	クロームブックの有効活用する方法について、様々な研修情報を提供すると共に、教員同士が各自の経験をお互いに共有できるように研修機会をより充実させます。
26 交通安全教室や防災避難訓練は子どもの安全意識向上に役立っている。	92	89	コロナ禍において全校で交通安全教室を行えませんでした。HR、学年集会、全校集会(放送)等で、「交通事故は命に関わり、常に当事者意識を持ち、自他共に命を守る行動をすること」を指導の柱とします。より生徒が実感できる交通指導として本校のみならず県内の事故事例報告や傾向と対策を周知し日々注意喚起をしていきます。
27 学校の施設・設備は整備され、安全である。	87	83	避難訓練時に露呈した放送機器不具合等の改善を図るなど、さらに安全対策の徹底に努めます。

### 第2回学校評価保護者アンケート自由記述について

いつも多くの貴重なご意見やご提案をいただき、改めて感謝申し上げます。少数意見の中にも全体につながる貴重な意見があることを認識し、一つ一つ解決に向けて検討し、学校運営に生かしてまいります。